

焼津市 困りごとマルっとサポート事業

令和6年7月9日(火)

焼津市 地域福祉課 河口

次第

- 1 体制構築プロセス
- 2 実施体制

I 体制構築プロセス

令和5年度 重層的支援会議、調整会議等 実績
R5.11～R6.3

会議開催
回数

20回

内訳 新規案件 11件 モニタリング 2件
調整会議 7件

出席課
総数

15課

総務課、環境課、地域福祉課、障害福祉課、地域包括ケア推進課、介護保険課、健康づくり課、子育て支援課、こども相談センター、土木管理課、道路課、建築住宅課、焼津市立総合病院患者支援センター、子ども支援課、家庭支援課

出席
関係機関

17職種

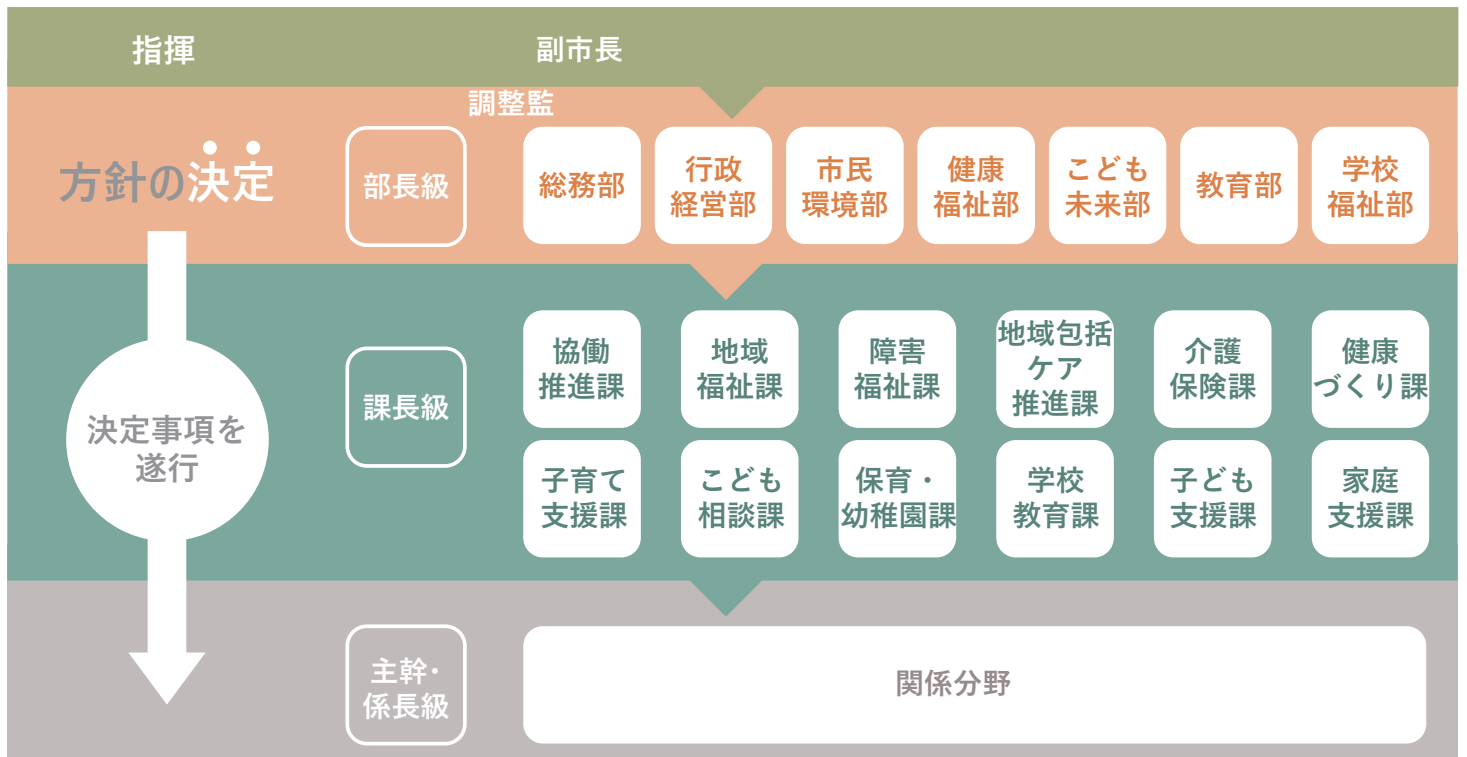
弁護士、地域包括支援センター、ケアマネジャー、障害委託相談事業所、障害計画相談事業所、精神科病院、小学校、中学校、特別支援学校、SSW、障害者就職・生活支援センター、就労継続支援A型、就労継続支援B型、焼津警察署、中部保健所、静岡県ひきこもり支援センター、静岡県発達障害者支援センター

経過

R4年3月		関係部署への講義（県）アドバイザー事業
R4年10月	事業説明	対象：部長級
10月	事業説明	対象：市長、副市長
現状確認		関係課ヒアリング・関係機関ヒアリング
分析		事業実施形態検討
R5年2月	承認	部長級
R5年5月	事業説明	課長級会議
6月	PT結成	プロジェクト化
7～11月		継続したケース会議
11月	事業説明	庁内関係27課への説明

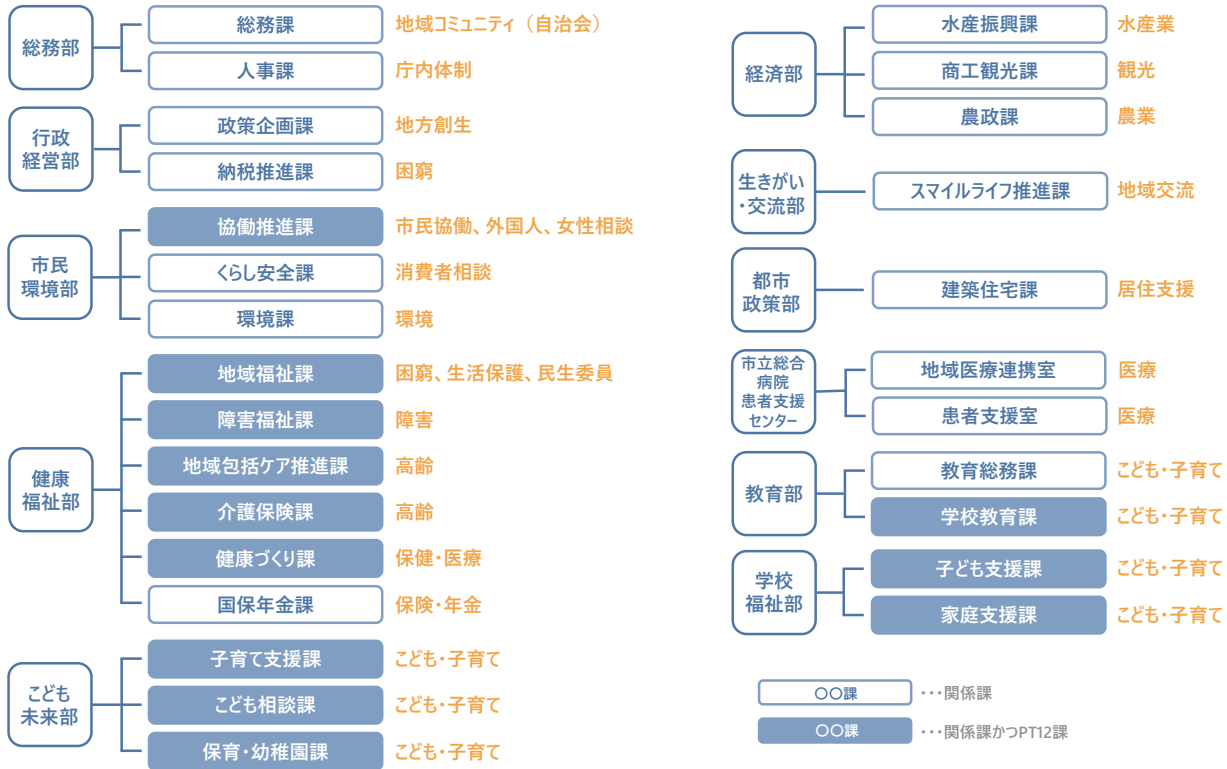
2

庁内会議の体制



3

関係課一覧

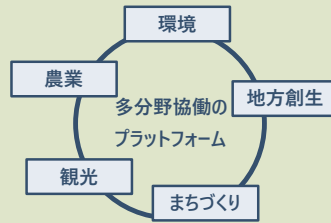


2 実施体制

全体像

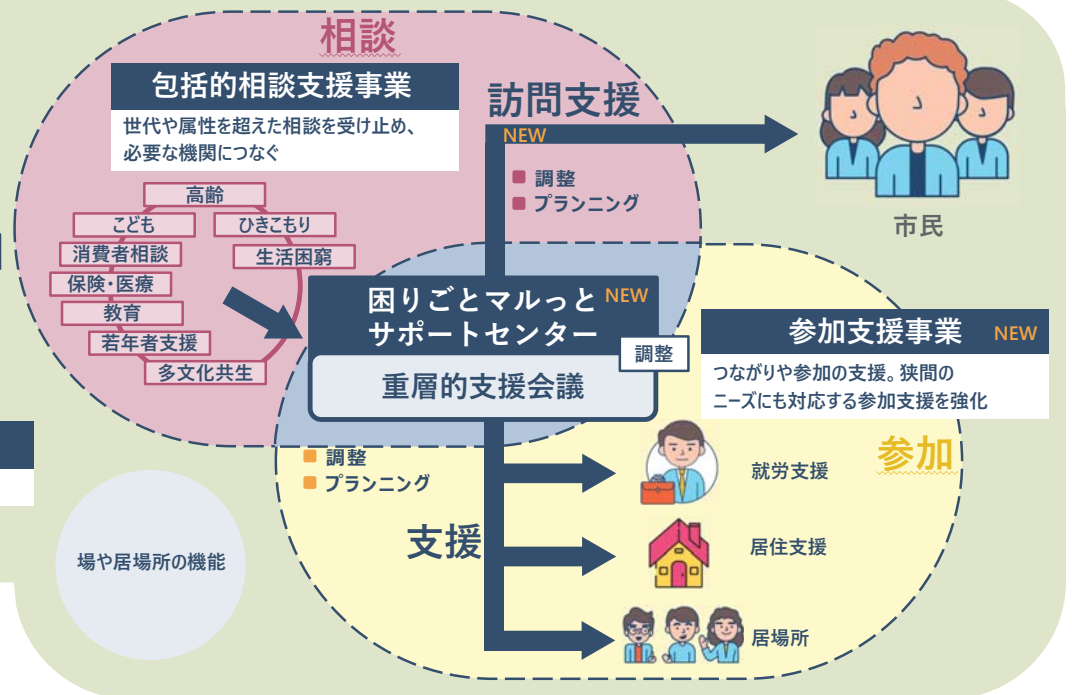
困りごとマルっとサポート事業（重層的支援体制整備事業）

地域づくり



地域づくり事業

地域づくりをコーディネート

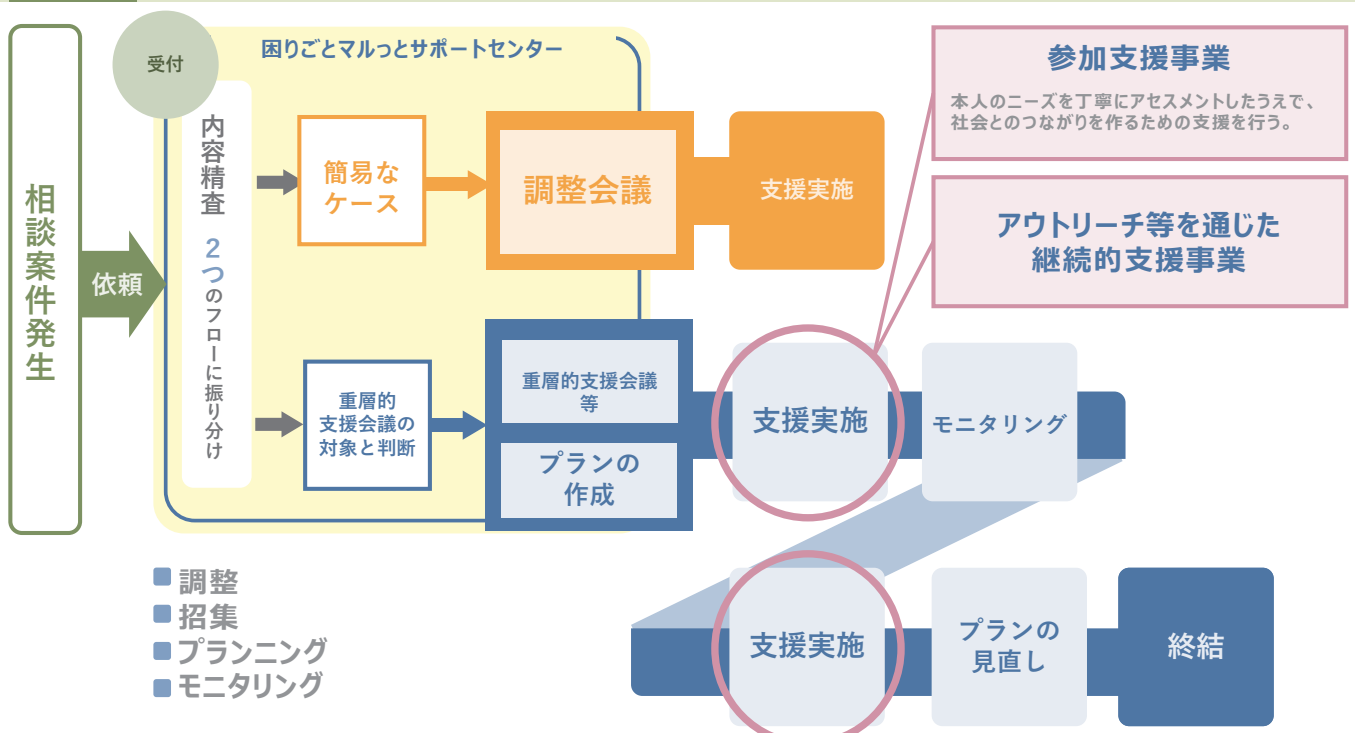


5

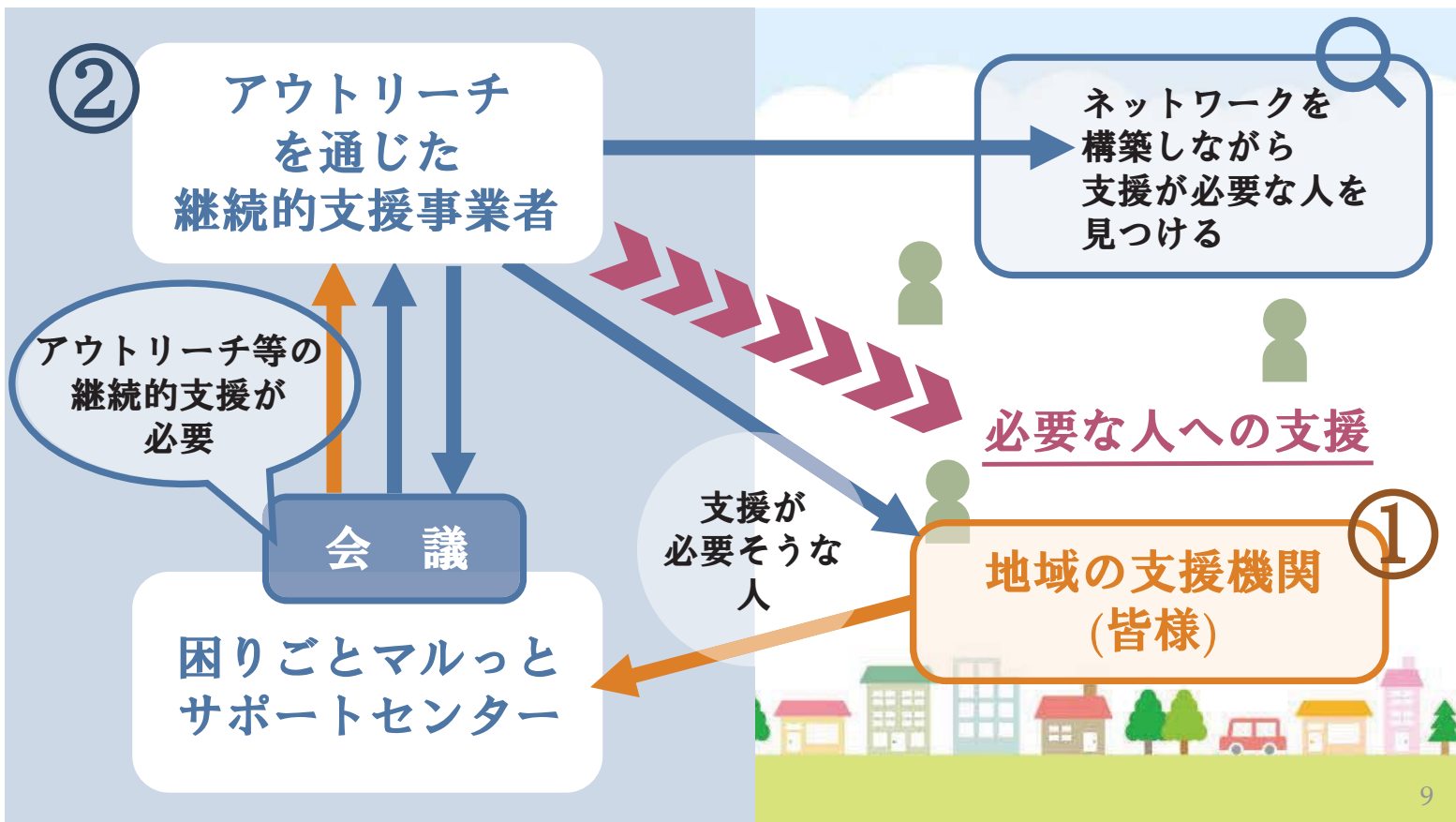
事業対象の定義

受けた相談、または発見した状況が

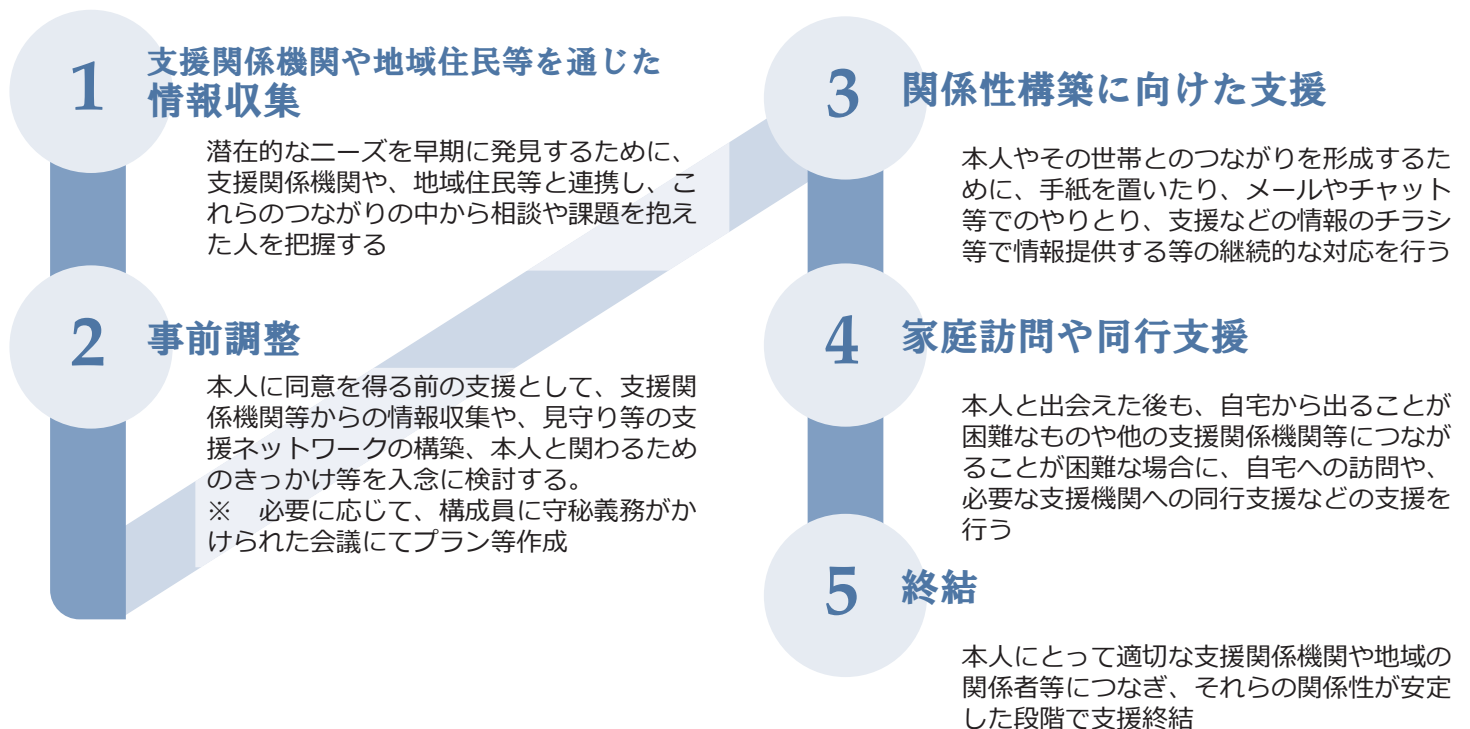
- 単一の支援機関では対応しきれず、さらに自分たちのネットワークで対応できないもの
- アセスメントの結果、近い未来に状況の悪化が予見される、支援が必要と考えられるもの



6



アウトリーチ等継続的支援事業の支援内容(概略)



参加支援事業の支援内容(概略)

1 相談受付・プラン作成

重層的支援会議において事業の利用が必要と判断されたものについて相談受付を行ったのち、アセスメントを行い、本人の抱える課題を踏まえて、社会とのつながりや参加を支えるためのプランを作成

2 資源開発・マッチング

- ・本人のニーズに沿って支援メニューのマッチングを行う。
- ・支援メニューについては、参加支援事業者が社会資源に働きかける等、既存の社会資源の活用方法の拡充を図り、多用な支援メニューをつくる。
- ・マッチングを行う場合に、受入先の状況もアセスメントした上でマッチングを行う。

3 定着支援・フォローアップ

- ・本人が新たな環境で居場所を見いだせるか、受入先等に定期的に訪問するなど言って期間フォローアップを行う。
- ・受入先に対しても、必要に応じて、本人との関わり方などに関して、本人と受入先の環境調整を行う。

4 終結

社会参加に向けて地域の資源等とのつながりができ、本人とつながり先との関係性が安定したと判断した段階で終結となる。

終結後も定期的な連絡を行うなど、つながりの維持に向けた働きかけを行う。

11

事業実施前に期待していた効果

業務の分散化

これまで支援が届かなかった方への支援が可能となる

課題の構造化 役割分担

意識の変化 できないと思っていたことが出来る
やらなければならない事象の認識が変わり広がる

事業実施後に見えてきた効果

他課や多分野の事業を把握し最も適当な事業を選択する **業務の効率化**

同系統の事業を集約する **業務の効率化**

相乗効果（組み合わせ） **市民サービスの向上**

仲間意識の芽生え **他課、多分野との連携促進 ▶ 市民サービス向上**

12

事業実施を目指す中で見えてきた効果 焼津市の場合

多分野に係る
会議を主導する部
署がない

主導部署が出来て
挙げやすくなった

情報のやり取りは
対象分野のみで
あり、全体（家庭）
の状況がわからない

重層的支援会議により
家庭全体の視点で支援
を捉えることができる
ようになった

制度の狭間により
支援が実施できな
い

アウトリーチ等継続
的支援事業、参加支
援事業により対応で
きるようになった

複数の支援機関に
よる関わりがあつ
ても、情報共有が
されない

支援チーム形成や、モ
ニタリング等による共
有が可能となった

情報連携を関係部
署と行うが情報を
伝えその後につい
て把握していない
（丸投げ）

重層的支援会議により
協働してケースの把握
及び支援ができるよう
になった

小さな役割分担に
困っている部署、
関係機関が多い

調整機能により役割が
整理される
また背景までの理解が
進む